

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2021.8—2023.7)

2022 年度第 2 回理事会 議事録



1. 日時

2023 年 1 月 22 日(日)16:00～18:50

2. 場所

国際文献社会議室および web 会議 (zoom 使用)

3. 出席者

理事総数:20 名、出席理事:20 名、

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、大内秀雄、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、鈴木孝明、須田憲治

瀧間浄宏、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、深澤隆治、三浦大、三谷義英、山岸正明、土井庄三郎

欠席理事:なし

出席監事:市田蒔子、河田政明、富田英

出席幹事:落合由恵、早瀬康信、水野芳子、武田充人

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として檜垣高史理事、深澤隆治理事が選任された。

6. 前回議事録の確認(2022 年度第 1 回理事会)

2022 年度第 1 回理事会議事録の確認が行われた。

7. 審議事項

第 1 号議案:2024 年 教育セミナー Advance course 日程・テーマについて(土井理事)

提案内容: 2024 年の教育セミナーは、2024 年 2 月 3 日(土)～2 月 4 日(日)の日程で小垣滋豊先生が世話人。肺循環をテーマとして開催される予定。

議決結果: 全員一致で承認された。

第2号議案:形態登録委員会の委員の追加について(土井理事)

提案内容: 京都府立医科大学解剖学講座の八代健太先生、国立循環器病研究センターの白石公先生、京都府立医科大学の山岸正明先生に形態登録委員会のメンバーとして入って頂きたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第3号議案:研究委員会設置規則の改定について(土井理事)

提案内容: 研究課題に対して、学術集会での研究委員会セッションにおける経過報告を義務付ける。年次報告については、8月末の研究員会において、Aについては口頭でのプレゼンテーション、Bについては紙面での年次報告を義務づける。

議決結果: 全員一致で承認された。

第4号議案:各課題研究の年次報告の承認時期について(土井理事)

提案内容: 経過報告、年次報告の内容が不適切な場合は課題研究を取り消す。また研究開始日を9月1日、終了日を8月31日と設定しているので、年次報告の評議員会と総会における承認は翌年となる。

議決結果: 全員一致で承認された。

第5号議案:研究の芽プロジェクトについて(土井理事)

提案内容: 2022年の新規研究課題の応募がなかったことから、学会員から研究テーマを広く募集し、応募の中から研究委員会で研究テーマを採択するプロジェクトとして立ち上げる。採択された研究テーマにとって適任な研究責任者と共同研究者を研究委員会が任命し、研究チームを設立する。この研究チームが新たに研究計画書を作成する。研究の発案者のクレジットをどう担保するかなどは、今後の研究委員会で決めていく。

議決結果: 全員一致で承認された。

第6号議案:委員会企画の非会員謝礼について(土井理事)

提案内容: 学術集会における委員会企画セッションについては、原則として各セッションの非学会員は1名で、謝礼は交通費/宿泊費を含まず3万円とする。

議決結果: 全員一致で承認された。

第7号議案:AHAへ派遣する若手研究者への助成額増額について(三谷理事)

提案内容: AHAによる米国人の日本への短期留学(YIEP)の補助金が2,500 USDから5,000 USDに増額された。これを受けてJSPCCSとしては、日本から米国への短期留学の補助金を20万円から50万円にする。

議決結果: 全員一致で承認された。

第8号議案:「先天性心疾患の手術を行う施設の集約化に関する提言」改定案について(山岸正明理事)

提案内容: 前委員長の芳村先生が作成されていた提言を年末に議論を重ねて改訂した。山岸正明理事より改訂ポイントの説明があった。1;年間150例以上はそのまま、5年を目途という文言は外し、拠点施設を中核とした地域の拠点化を学会が推進する。2・3;手術実施施設は拠点施設に変更。4;集約化に地域拠点化を入れた。5;診断名を削除して、地域拠点化への第1歩として、年間手術数50例未満の施設では、中等症以上のリスクを伴う手術の実施を控える事が望まし

いが、手術を行う際には地域の実情に応じた拠点病院との連携が推奨される。以下が改訂された提言要旨。

先天性心疾患の手術を行う施設の集約化(地域拠点化)に関する提言

1. 年間 150 例以上の手術を行う拠点施設(高難度手術実施施設)を中核とした地域の拠点化を学会が推進する。
2. 拠点施設は、次世代を育成する能力をもった多職種ハートチームを有する必要がある。
3. 拠点施設は、集中治療専門医研修施設である独立した小児 ICU を備える事が望ましい。
4. 集約化(地域拠点化)により、すべての手術実施施設は 2024 年度から始まる‘医師の働き方改革’に準拠しえる体制となることが望ましい
5. 地域拠点化への第 1 歩として、年間手術数 50 例未満の施設では、中等症以上のリスクを伴う手術の実施を控えることが望ましいが、手術を行う際には地域の実情に応じた拠点施設との連携が推奨される

地域の決め方に関しては次世代育成情報 WG で検討中。次の日本心臓血管外科学会の理事会で本提言(改訂)を審議する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 9 号議案:「小児心臓外科医生涯育成プログラム」案について(山岸理事)

提案内容: 中野理事より、学会主導の若手育成プログラムに関して説明があった。手術の難易度によりレベルを 4 つに分けており、レベル 1-4(Basic、Advanced-1、Advanced -2、Advanced -3)までのレベル認定制を制定する。手術 Quality による評価は、Boston 小児病院の Technical performance score を参考に JSPCCS 版を作成した。育成指導医による総合評価(A、B、C、D で B 以上が OK)、また各レベル申請時に指定の術式のビデオを提出するビデオ評価も行う。育成指導医による評価だけでなく、内科医による評価も行う。修練医による指導者の逆評価も行う。また小規模施設の責任者が自身のレベルアップを希望する場合も、このシステムによる評価ができる。

日本で約 90 施設から情報収集したデータによれば、50 例未満の施設でも Basic の修練は可能、Advanced-3 の修練は年間 200 例以上の約 15 施設で可能。CHSS Japan 幹事会でも承認されており、今後登録システムも含めたプログラムの運用について、学会主導で検討する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 10 号議案:「多領域ミニカンファレンス」の会員限定配信について(山岸正明理事)

提案内容: 前回理事会でオンデマンド配信に関して承認された。予算について審議。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 11 号議案:第 13 期専門医試験結果について(鮎沢理事)

提案内容:2022/11/6 と 11/13 で分散会場での筆記試験とオンライン面接を行った。ここ数年に比較して、やや平均店が低く、42 名が受験した、筆記試験の結果、偏差値 40 以上かつ素点 60 点以上の両方を満たすことを合格ラインとし、9 名がこれを満たさず不合格になり、33 名の合格者であった。面接で不合格になった人はいなかった。2 回ないし 3 回不合格の人が出ている。受験回数に制限はない。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 12 号議案:59 回学術集会における心肺蘇生講習会の費用について(檜垣理事)

提案内容:心肺蘇生講習会を学会委員会企画として心肺蘇生に関する市民公開講座と心肺蘇生講習会(PUSH)を行い

たい。心肺蘇生講習会(PUSH)では、学会で予算計上をお願いしたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 13 号議案:新しいカテーテル治療のあり方 WG メンバー交代について(三浦理事)

提案内容:世代交代を図りたいという方向性。新メンバーが決まったら再度理事会審議する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 14 号議案:HBD for Children 関連会議の海外渡航費補助について (山岸敬幸理事長)

提案内容:HBD for Children 関連会議のため海外渡航費用を学会に申請する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 15 号議案:機械弁の償還価格下落に関する要望書提出について (鈴木理事・山岸敬幸理事長)

提案内容:機械弁の償還価格が下落している。企業としては赤字になるのでセンチュリーメディカル社は ATS 弁の販売を撤退した。償還価格を妥当な水準に維持する措置が講じられるよう、関連学会連名の要望書を厚生労働大臣に提出する。日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本成人先天性心疾患学会(承認済)、日本循環器学会(検討中)と連名で出す。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 16 号議案:医療機関等との透明性ガイドラインの会員周知について(瀧間理事)

提案内容:透明性ガイドラインに改訂に関する資料につき学会員に周知する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 17 号議案:成人先天性心疾患診療加算に関する共同提案について(赤木理事)

提案内容:成人先天性心疾患外来診療の外来診療加算について、日本成人先天性新疾患学会とともに日本小児循環器学会も共同で提案する。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 18 号議案:選挙管理委員会委員について(山岸敬幸理事長)

提案内容:次期日本小児循環器学会の理事選挙について、選挙管理委員長を東京都立小児医療センターの前田潤先生をお願いしたい(理事長推薦)。

議決結果: 全員一致で承認された。

第 19 号議案:第 62 回(2026)学術集会会長について(山岸敬幸理事長)

提案内容:2026 年の日本小児循環器学会学術集会の会長候補として、先崎秀明先生を推薦する。先崎先生は数年前より立候補しており、2024 年学術集会会長候補者選挙にも参加した。2026 年について北里大学心臓血管外科・宮地鑑先生と共同で開催する意向を理事長として受けて推薦する。

議決結果: 共同開催という形態について、理事より下記のような疑義が出て、審議保留となった。未来予想図委員会、学術委員会・学術集会支援委員会で、学術集会に関する規定・規約を含めて検討して再度理事会に諮る。

疑義・意見:

今までは内科系;外科系 3:1 の割合で会長をつとめているが、その割合について今後どのように考えるか?

共同開催(副会長、分野別会長を設定するなど)についての、学会の規定・規約がない。現状で副会長を設定することは不適切。共同開催形態を設定するためには規定・規約の改定が必要。

資金面の事もあり、新しい学術集会の形態として共同開催を模索することは有意義。

単独開催ができない(共同開催でないといけない)という会長候補を推薦して問題はないか?

第 20 号議案:新生児 SpO₂ モニター一般化の提言について(城戸理事)

提案内容:生後 24 時間以内の新生児 SpO₂ モニターの一般化について、日本新生児成育医学会より合同で提言を出すなどの活動をする事について打診あり、具体的な話し合いを開始して良いか。

議決結果:全員一致で承認された。

8. 報告事項

・理事長報告

1. 持ち回り理事会報告

第 59 回学術集会の演題申し込みに際して、医師以外の多職種の発表に限り、筆頭演者・共同演者は会員である必要無しとすることについて(第 5 号議案)、及び日本不整脈心電学会とのジョイントセッション取り決めについて(第 6 号議案)承認済み。

・会長報告

1. 第 58 回学術集会開催報告(土井庄三郎会長)

最終参加者は 1586 名、医師 1197 名であった。COVID-19 の流行状況からハイブリッドとし、現地参加 1280 名、オンデマンド配信視聴は 663 アカウント、延べ視聴数は 5958 あった。「標本展示」「教育講演1:肥大型心筋症」「シンポジウム:学校心臓健診」及び「医療安全講習会」の参加が多かった。

収支については、北海道及び札幌市から 600 万の助成があったが、現地開催のため懇親会・会長招宴ができず、シャトルバス代、ポスター発表会場費が掛かり+250、700 円であった。

2. 第 59 回学術集会準備報告(鈴木孝明会長)

現在演題登録期間だが延長予定、現地開催予定、各セッションの企画決定及び座長・演者の依頼状況、関連会合の申し込み、プログラム案について報告があった。多領域専門職特に看護師の演題登録を勧めて頂きたい。会場確保の関係で懇親会を 1 日目の夜に予定した。総会・表彰式を 3 日目の朝としたい。

不整脈学会と日程が重なっているため 1 日目に不整脈関連のセッションを予定することで不整脈学会と相談した。

・各エリア委員会報告

学術エリア

学術委員会(土井理事)

内科系教育委員会(土井理事・藤井隆成委員長)

データベース小委員会(土井理事・関満委員長)

外科系教育委員会(中野理事・猪飼秋夫委員長)

専門医更新の単位付与について検討中。現在国際文献社で構築中の参加費徴収・単位付与システムの作成を待って有料化と単位付与について検討する。

形態登録小委員会(土井理事・稲井慶委員長)

研究委員会(土井理事・新居正基委員長)

遺伝子疫学小委員会(土井理事・犬塚亮委員長)

ガイドライン委員会(土井理事・横山詩子委員長)

学術集会支援委員会(土井理事・早淵康信委員長)

学術集会運営マニュアルに関して改訂中であり、学会事務局の確認を得た上で、理事会で審議していた
だく予定である。

ジョイントセッション委員会(土井理事・先崎秀明委員長)

顕彰委員会(土井理事・小垣滋豊委員長)

渉外エリア

渉外委員会(三谷理事)

次回 Word Congress がワシントン DC であり演題募集開始されたので応募して欲しい。

循環器病対策基本法の第 2 期基本計画において、個別施策、初期アウトカムが今年度決まってくる。理事長と相談しながら関わっていく。

循環器病対策基本法の第 2 期個別施策が今年度決まってくる。理事長と相談しながら関わっていく。

次世代エリア

次世代育成委員会(山岸正明理事)

多領域専門職委員会(山岸正明理事・仁尾かおり委員長)

働き方改革委員会(岩本理事・佐藤誠一委員長)

B 水準と C2 水準についてまだ周知されていないので学会員にわかりやすくアナウンスしていきたい。

学校検診についてマイナポータルの PHR 化が進んでいるが、学校健診の結果をどう残していくかがまだ不透明で、
学校検診委員会とあり方を考えるワーキンググループで検討を進める予定。

専門医制度エリア

今年度の専門医試験は原則として 1 会場で実施を予定している。

専門医機構のサブスペ認定について、小児科学会がとりまとめているサブスペ連絡協議会において 2/7 に 5 学会で
小児のサブスペを申請する方向で検討する。

カリキュラム委員会で専門医認定のための研修記録を電子的に残せるようシステムを作成し委員でトライアル予定。

地方会について、継続の意思を確認したところ 6 地方会は継続困難、その他継続意思がある会は 3 月までに書類の
提出を依頼し、審査を予定している。

専門医制度・認定委員会(鮎沢理事)

専門医試験委員会(鮎沢理事・平田陽一郎委員長)

専門医カリキュラム委員会(鮎沢理事・麻生健太郎委員長)

地方会認定委員会(鮎沢理事兼委員長・藤原優子副委員長)

学会誌エリア

投稿数が増えない状況が続いている。企画を考え依頼原稿を進めるので協力をお願いしたい。学術集会で現在の

取り組みの報告と今後の方向についてシンポジウムを企画した。

和文誌編集委員会(大内理事・高橋健委員長)

英文誌編集委員会(大内理事・上村秀樹委員長)

社会制度エリア

小慢・難病について、次回4月の小児科学会で小児を取り巻く社会制度について講演を予定している。

学校健診はデジタル化が予定されているので、次回学術集会で委員会企画を予定している。

学会と教育連携委員会では出張授業も予定している。

移植について、ドナーの搬送に大きく関わる日本重症患者ジェット機搬送ネットワーク及び小児の移植施設審査状況について2月の委員会で把握検討予定である(移植委員会:笠原理事)。また補助心臓ジャービックが使用できる時期が先送りになっている(VAD検討委員会:鈴木理事)。

学校心臓検診委員会(檜垣理事・牛ノ濱大也委員長)

蘇生科学教育委員会(檜垣理事・太田邦雄委員長)

学校と教育の連携委員会(檜垣理事・内田敬子委員長)

保険診療/臨床試験エリア

ARNIは早めれば来年早々に承認される見通し、マンテンタンの治験の手続きが進んでいる。

今後保険診療で採択される際にガイドラインが重視される、ガイドラインに掲載されていないと不利になるので注意が必要。

保険診療委員会(小野理事)

臨床試験委員会(三浦理事)

医療材料機器委員会(三浦理事・杉山央委員長)

HBD for Children 委員会(山岸理事長)

医療安全・倫理エリア

次回医療安全委員会の講師が決定した。

心エコー学会認定の心エコー専門医の認定が、小児科医でも取得可能な内容になった。

医療安全委員会(鈴木理事)

利益相反委員会(瀧間理事・中島弘道委員長)

倫理委員会(瀧間理事・前田潤委員長)

未来予想図委員会(・広報委員会)

患者さん向けHP及びSNSの利用にとりくみ、患者さんからの反応も見られている。

未来予想図委員会(山岸敬幸理事長)

広報委員会(山岸敬幸理事長・松井彦郎委員長)

9. その他

APPCSが2月にフィリピンで予定されている。ビジネスミーティングもあり、日本からも現地に来て欲しいと連絡されている(赤木理事)。Web開催からハイブリッドに変更になり、渉外委員会で参加者を検討する。

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から謝辞があり、閉会した。

10. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から謝辞があり、閉会した。